

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	帝塚山大学				
取 組 名 称	学生の学力・人間力・社会力の養成				
取組学部等	全学				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A21212	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	ICT	成績評価			
キーワード	学力, 人間力, 社会力, e能力ポートフォリオ, e能力アセスメント				

<選定理由>

本取組は、学生の学習成果を定量的に把握してきた評価法に加えて、キャリア教育（人間力）と社会実践教育（社会力）の定性的な特徴を質的に評価して学生の能力を多面的に捉える教育手法の取組である。特に、体験型・参加型の多様な実践的学習の成果を記録・蓄積する「e能力ポートフォリオ」の活用とそれを支援する「eラーニングシステムTIES」を連携させて運用する方法は、学生自らの資質を高めることができ、当大学の人材養成目的の達成に資するもので意義がある。また、多くの教職員による対面指導、個人指導を基にした全学的な協力体制が整備されており、実施計画では毎年度、取組対象・評価基準策定、システム開発、運営体制など取組の事業評価と外部評価を受けて改善策を行うことなど、取組の教育効果が期待できると評価できる。

ただし、ITの活用には教員と学生との信頼関係の持続が難しくなることも考えられ、また、低い評価の学生に対する指導・改善策について、取組の工夫と改善が加えられればさらに優れた取組となる。

取組の概要【1ページ以内】

帝塚山大学は、「広い国際的視野の上に、日本人としての深い自覚と高い識見を持ち、社会の要請に応え得る豊かな教養と実学的専門性を備えた人材の育成」の教育理念を掲げ、次代を担う青年の育成に努力している。

本取組は、学生の学習意欲を喚起し主体的な学びによる全人格的な資質を養育するため、学生の目的意識を明確にするキャリア教育（人間力）と、現実の社会の中で体験することにより学びの重要性に気づきを与える社会実践教育（社会力）の定性的な評価の指標と基準を明確にし、学生の成長の軌跡を定量的な評価によって判定・記録する取組である。

現在の大学の学生評価においては、試験の点数や出席回数など定量的な評価が容易な学力は適切に判定してきたが、定性的な特徴を持つ学生の人間性（人間力）や社会人としての資質（社会力）に関する評価は不十分であった。また、学生の学習意欲を刺激し、主体的な学習を動機づける実効性のある仕組みを構築することも難しかった。

本取組はこの課題に対処するため、学生の入学時から卒業まで全学的な支援体制を整備し、教職員と外部評価員による指導と評価を基に、学生一人一人が自分の学力・人間力・社会力を自己点検、自己管理しながら、本学の教育課程から主体的に学習することができるようにする。

そのため、学生に入学時から卒業までの多様な学習成果を記録・蓄積し自己管理できる「e能力ポートフォリオ」を持たせ、学生一人一人にきめ細かい指導を可能にするため、教職員や外部評価員による学習の到達度や志向・態度に関する客観的評価を自己点検できる「e能力アセスメント」と、本学が開発したeラーニングシステムTIES（タイズ）を連携させる。

例えば本学では、学生に入学時から体験型、参加型のオリエンテーションや英語のドラマ発表会を準備し、人と交流できる社交性や協調性、異文化に対する寛容の精神や理解を通して、学びの重要性と目的意識を植え付けている。本取組では、学生が提出する参加報告書やプレゼン資料をe能力ポートフォリオに整理し、教職員による人間力や社会力のe能力アセスメントを実施して、学生の意識改革を初年度より行うことができる。

次に2年次の学生は、自分の人生や職業について考えることができるようになることを目標に、自己発見レポートの作成や企業見学会に参加する。そこで作成されるレポートやシートもe能力ポートフォリオに記録され、社会生活に求められる自己実現能力がe能力アセスメントにより定量的に評価され、学生の学びに対する動機付けに役立てられる。3年次からは、児童支援活動や企業実務の体験等の課外実践を通して、専門知を実践知に転換するために必要な人間力と社会力を把握できるようになり、自分の道を自分で切り開いていける人材に成長していくことができる。